

## 平成30年第4回那須塩原市議会定例会

### 議事日程（第2号）

平成30年12月3日（月曜日）午前10時開議

- 日程第 1 会派代表質問
- 16番 伊藤豊美議員
    - 1. 第2次那須塩原市総合計画に基づいた31年度当初予算の考え方について
    - 2. 黒磯駅周辺地区都市再生整備計画事業について
  - 17番 眞壁俊郎議員
    - 1. 新庁舎建設について
  - 19番 相馬義一議員
    - 1. 人口減少が進むなか君島市長の市行財政運営について

出席議員（26名）

1番	山形紀弘	議員	2番	中里康寛	議員
3番	田村正宏	議員	4番	星野健二	議員
5番	小島耕一	議員	6番	森本彰伸	議員
7番	齊藤誠之	議員	8番	星宏子	議員
9番	佐藤一則	議員	10番	相馬剛	議員
11番	平山武	議員	12番	大野恭男	議員
13番	鈴木伸彦	議員	14番	松田寛人	議員
15番	櫻田貴久	議員	16番	伊藤豊美	議員
17番	眞壁俊郎	議員	18番	高久好一	議員
19番	相馬義一	議員	20番	齋藤寿一	議員
21番	君島一郎	議員	22番	玉野宏	議員
23番	金子哲也	議員	24番	吉成伸一	議員
25番	山本はるひ	議員	26番	中村芳隆	議員

欠席議員（なし）

説明のために出席した者の職氏名

市長	君島寛	副市長	片桐計幸
教育長	大宮司敏夫	企画部長	藤田一彦
企画政策課長	松本仁一	総務部長	山田隆
総務課長	田代宰士	財政課長	田野実
生活環境部長	鹿野伸二	環境管理課長	五十嵐岳夫
保健福祉部長	田代正行	社会福祉課長	板橋信行
子ども未来部	富山芳男	子育て支援課	相馬智子
産業観光部長	小出浩美	農務畜産課長	八木沢信憲
建設部長	稲見一美	都市計画課長	大木基
上下水道部長	磯真	水道課長	黄木伸一
教育部長	小泉聖一	教育総務課長	平井克巳
会計管理者	高久幸代	選管・監査・固定資産評価・公平委員会事務局長	増田健造
農業委員会事務局長	久留生利美	西那須野支所長	後藤修

塩原支所長 宇都野 淳

本会議に出席した事務局職員

議会議務局長 石塚 昌章

議事課長 小平 裕二

議事調査係長 関根 達弥

議事調査係 鎌田 栄治

議事調査係 室井 良文

議事調査係 磯 昭弘

開議 午前10時00分

◎開議の宣告

- 議長（君島一郎議員） おはようございます。  
散会前に引き続き、本日の会議を開きます。  
ただいまの出席議員は25名であります。  
23番、金子哲也議員から遅刻する旨の届け出があります。

◎議事日程の報告

- 議長（君島一郎議員） 本日の議事日程はお手元に配付のとおりであります。

◎会派代表質問

- 議長（君島一郎議員） 日程第1、会派代表質問を行います。  
質問通告者に対し順次発言を許します。

◇ 伊 藤 豊 美 議 員

- 議長（君島一郎議員） 初めに、那須塩原クラブ、16番、伊藤豊美議員。  
○16番（伊藤豊美議員） 皆さん、おはようございます。  
議席番号16番、那須塩原クラブ、伊藤豊美です。  
通告書に基づきまして、会派代表質問を行います。  
1、第2次那須塩原市総合計画に基づいた31年度当初予算の考え方について。  
平成30年度は、第2次那須塩原市総合計画の2年目の年として、重点プロジェクトに位置づけら

れた事業を中心に市政運営が行われています。

来年度においてもよりよいまちづくりを推進し、総合計画に掲げられた「誰もが安心して生活できるつながりのあるまち」、「地域資源が輝き産業が元気なまち」、「交流が生まれ人が元気なまち」、「未来を拓く子どもが生まれ育つまち」、そして「県北の中心都市にふさわしいまち」の実現のために充実した予算を編成するものと思いません。

効率的で効果的な当初予算を編成するためには、それぞれの事業を検証し、本当に必要な事業に集中して投資する必要があると考えるため、以下のことについて伺います。

(1)29年度決算、30年度予算を経て、31年度の当初予算において、基本政策8政策ごとにどの事業をスクラップし、どのような事業をビルドするのか。また、財源を集中して重点的に実施する事業は何か伺います。

(2)来年度の予算編成において、各種基金をどのように活用していく考えなのか伺います。

- 議長（君島一郎議員） 16番、伊藤豊美議員の質問に対し、答弁を求めます。  
市長。

- 市長（君島 寛） おはようございます。

那須塩原クラブ、伊藤豊美議員の会派代表質問にお答えをいたします。

まず、1の第2次那須塩原市総合計画に基づいた31年度当初予算の考え方について、順次お答えをいたします。

初めに、(1)の政策ごとの事業のスクラップ、ビルドについてお答えをいたします。

平成31年度当初予算編成につきましては、これから編成作業を進めるところであります。

事業のスクラップの目的は、行政評価による検証等から既存事業の廃止や集約、対象範囲の縮小

や統合などにより財源を生み出すことであると考えております。対象事業といたしましては、政策目的が終了した事業などとなってまいります。

一方、事業のビルドの目的は、新規事業や事業拡充のための経費について優先的に予算を配分し、効率的な事業の推進を図ることと考えております。対象事業といたしましては、総合事業に基づく重点プロジェクトや喫緊の行政課題に対応するための事業となります。

また、財源を集中し、重点的に実施する事業につきましては、このビルドした事業を中心に実施をしております。

なお、政策ごとの事業のスクラップ、ビルドにつきましては、この後、編成作業を進めていく中において精査をしております。

次に、(2)の予算編成において各種基金をどのように活用していくかについてお答えをいたします。

各種基金の活用につきましては、現在、編成作業中のため、これから取りまとめていくこととなりますが、財政計画では、まちづくりのための財源にふるさと基金を、公共施設等の整備及び長寿命化のための財源に公共施設等有効活用基金を、財源不足を補うための財源に財政調整基金などの活用を考えているところであります。

以上、お答えをいたします。

○議長（君島一郎議員） 16番、伊藤豊美議員。

○16番（伊藤豊美議員） それでは、1、第2次那須塩原市総合計画に基づいた31年度当初予算の考え方について、(1)について再質問を行います。

実施計画の中で重点プロジェクト1から4まであるが、それぞれの現状と課題について伺います。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

総務部長。

○総務部長（山田 隆） 重点プロジェクトにおける現状と課題というところでありますが、それぞ

れ現状、課題、さまざまな問題が担当課、各部署から上がってくると思いますが、それぞれに31年度の当初予算において、それらをヒアリングの中で今後詰めていって対処していきたいと考えておりますので、今現在、具体的なところはちょっと、31年度当初予算の範囲の中ではちょっとまだ不確定というところでございます。

○議長（君島一郎議員） 16番、伊藤豊美議員。

○16番（伊藤豊美議員） このことなんですが、どういう効果を見込んで予算を配分するのか伺います。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

総務部長。

○総務部長（山田 隆） 事業の効果につきましては、それぞれ担当部局においてその目的、効果を十分に精査して財政課のほうに上げてくるわけでございますが、全体的な話を申し上げますと、議員ご指摘の8つの政策というのがございます。これは市の将来像を目指して8つの政策、その下の基本的な施策、具体的な施策がございます。

これらを実現するためにさまざまな事業を実施しているわけでございまして、効果というところで申し上げますと、この事業をやることによって施策の実現が可能になるかどうか、本当にその施策が実施できるのか、その辺が事業を実施する上での課題、効果という形になるかと思っております。

○議長（君島一郎議員） 16番、伊藤豊美議員。

○16番（伊藤豊美議員） それでは、(2)の再質問に移りたいと思います。

各基金、幾ら使うか、幾ら使う予定なのかを伺います。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

総務部長。

○総務部長（山田 隆） 来年度の予算において基金をどれくらい使うかというのは、先ほど市長が

申し上げたとおりにこれから精査していくこととなりますが、昨年度の例で申し上げますと、ふるさと基金につきましては2億4,000万ほど充当させていただいております。

それから、公共施設等有効活用基金につきましては、当初1億3,000万ほど充当する予定でありましたが、予算の中でやりくりをしておりますので、実際には基金については1億3,000万は引き出せなかったという経過がございます。

いずれにいたしましても、31年度の予算において、これから精査していくこととなりますが、ふるさと基金については30年度同様、それから公共施設についてはこれからふえていくという形になるかと思っております。今のところ、基金の使い道についてはそんなところでございます。

○議長（君島一郎議員） 16番、伊藤豊美議員。

○16番（伊藤豊美議員） わかりました。

今後、基金を新たに創設することは考えるのか伺います。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

総務部長。

○総務部長（山田 隆） 市の施策とか国の方針によりまして新たに必要な、取り組む必要があるという事業が起きてきたときには、当然基金という形になるかと思っておりますが、今のところ新しい基金を設置するという計画はございません。

○議長（君島一郎議員） 16番、伊藤豊美議員。

○16番（伊藤豊美議員） わかりました。

第2次那須塩原市総合計画の3年目の年として、重点プロジェクトに位置づけられた事業をしっかり運営するための31年度予算を組んでいってほしいと思います。よろしく願いいたします。

2、黒磯駅周辺地区都市再生整備計画事業について。

まちなか交流センター建設工事について、(1)の

①について再質問を行い……。失礼しました。

失礼しました。2、黒磯駅周辺地区都市再生整備計画事業について。

黒磯駅周辺地区都市再生整備計画事業について、まちなか交流センターの建設工事が大幅に遅れていると聞いております。また、（仮称）駅前図書館の建設工事については、11月末現在で進捗率が10%程度と聞いております。

両施設とも、市民が早期にオープンを心待ちにしている施設ですが、まちなか交流センターの建設工事がおくれている状況を受け、今後の（仮称）駅前図書館の建設工事においてもさまざまな状況が考えられるため、以下のことを伺います。

(1)まちなか交流センター建設工事について。

①当初の計画と比べ、大幅に工事がおくれている理由を伺います。

②発注者として、このような状況をどう考えているかを伺います。

③工事のおくれにより、施設のオープン時期にどのような影響があるか伺います。

④今後のスケジュールを伺います。

⑤オープンを心待ちにしている市民に対し、事業の進捗状況説明をどのように行っているか伺います。

(2)（仮称）駅前図書館建設工事について。

①工事の進捗状況について詳しく伺います。

②今後のスケジュールを伺います。

③工事の進捗状況のチェック体制について伺います。

④工事に影響が生じる問題等について、現時点で把握しているものがあるのか伺います。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） それでは、2の黒磯駅周辺地区都市再生整備計画事業について、順次お答えを

いたします。

初めに、(1)のまちなか交流センター建設工事についてお答えをいたします。

①の当初の計画と比べて大幅に工事がおこなわれている理由につきましては、当初計画では平成30年3月末の工事完成としておりました。しかしながら、下請鉄骨製作者の自主廃業により、工程に大きなおくれが生じたところであります。

その後、鉄骨製作者を新たに選定し、平成30年12月末の完成を目指して工事を進めてまいりましたが、建築工事の全国的な需要拡大により資材や人手の調達に予想以上の日数を要したことから、完成期日を平成31年2月末としているところであります。

次に、②の発注者としてこのような状況をどう考えているのかについてお答えをいたします。

下請鉄骨製作者は、これまで工事実績に問題のない業者であったことから、これまで工事実績に問題のない、そういったことで本市としては廃業を予見し得ない事案であったと考えております。

新たな鉄骨製作者の選定後も、適時進捗管理を行い、工期短縮に向け施工方法等の検討も進めてきたところでありますが、誠に遺憾ながら、現在の建設業界を取り巻く人材や資材調達環境から、工期短縮は困難な状況であると考えております。

次に、③の工事のおくれにより施設のオープン時期にどのような影響があるのかについてお答えをいたします。

建設工事のおくれは、オープン時期に直接的な影響がございましたが、でき得る限り早期開館を目指し、関係者との調整を図りながらスケジュールの検討や準備作業を進めてまいりたいと考えております。

次に、④の今後のスケジュールについてお答えをいたします。

現在、鉄骨建方が完了し、外壁の施工を行っております。さらに内装工事を進め、年明けに設備の調整を行い、平成31年2月末の工事完成を予定しております。また、建築工事の進捗を見ながら外構工事も進めていく考えであります。

最後に、⑤のオープンを心待ちにしている市民に対し、事業の進捗状況説明をどのように行っているかについてお答えをいたします。

まちなか交流センターは、設計段階から地元団体と協議を行っており、進捗状況は随時お知らせをしております。また、工事の状況につきましては、市のホームページにて公表をしております。

次に、(2)の駅前図書館建設工事について、順次お答えをいたします。

初めに、①の工事の進捗状況についてお答えをいたします。

駅前図書館新築工事は、当初工期を平成29年12月22日から平成31年3月15日としておりましたが、建築工事範囲内の支障物移転に不測の日数を要したことから、工事着手までに6カ月程度の期間を費やしており、11月末の進捗状況は約11%となっております。

次に、②の今後のスケジュールについて、④の工期に影響が生じる問題については、関連がございますので一括してお答えをいたします。

工期に影響が生じる問題として、失礼しました、鉄骨の柱とはりとを接合するための高力ボルトの納品が全国的な品薄を背景におこなっている状況にあります。そのため、今後のスケジュールにつきましては、平成31年度9月末の完成を目指しておりましたが、その工期内の完成が難しい状況となってきております。

最後に、③の工事の進捗状況のチェック体制についてお答えをいたします。

現在、市職員の工事監督員によるチェックのほ

か、工事施工監理業務を設計者に委託をしており、受注業者と隔週の定期的な打ち合わせを行い、週間工程、月間工程の確認を行い、さらに必要に応じて詳細な打ち合わせを随時実施し、適切な工程管理に努めているところであります。

以上、答弁といたします。

○議長（君島一郎議員） 16番、伊藤豊美議員。

○16番（伊藤豊美議員） それでは、2、黒磯駅周辺地区都市再生整備計画事業についてに入っていきますかと思っております。

(1)の①について再質問を行います。

今後、建設工事がさらにおくれることはないか伺います。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

建設部長。

○建設部長（稲見一美） それでは、再質問にちょっとお答えをさせていただきます。

今後、さらにおくれることはないかというご質問でございますけれども、全体の工程に大きな影響を与えてしまいました鉄骨工事は完了いたしました。今後の進捗状況をしっかり管理しながら、2月末の完成を目指して全力で取り組みたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（君島一郎議員） 16番、伊藤豊美議員。

○16番（伊藤豊美議員） それでは、続きまして、(1)の②の再質問を行います。

今回、下請業者の廃業があったが、下請業者の施工能力を確認しているのか伺います。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

建設部長。

○建設部長（稲見一美） 下請業者の確認についてでございますが、まず元請の業者が法律などに基きました認定状況の確認を行いまして、十分な施工能力があると判断した業者を部分下請通知書

ということで市のほうに提出いただきまして、私どもでそれを審査しているところでございます。

廃業した業者でございますが、スカイツリーとかさいたまスーパーアリーナ、それから愛知万博などにも施工を行っているという業者でございます。そのようなことで問題なかったのではないかなということでございます。

以上です。

○議長（君島一郎議員） 16番、伊藤豊美議員。

○16番（伊藤豊美議員） わかりました。

それでは、(1)の③について再質問を行います。

フードコート出店業者を選定済みであると思うが、その業者と調整は図られているのか伺います。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

産業観光部長。

○産業観光部長（小出浩美） フードコートの業者との調整ということでございますけれども、現在、フードコートには2社の方に出店をいただくことになっております。

こうした工期のおくれについては、出店者についても非常に気にされているところであり、この辺については随時丁寧な情報提供に努めております。

○議長（君島一郎議員） 16番、伊藤豊美議員。

○16番（伊藤豊美議員） それでは、(1)の④について再質問を行います。

市のホームページには、オープン期日を平成31年3月以降となっているが、外構工事のおくれによる影響なのか伺います。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

建設部長。

○建設部長（稲見一美） 外構工事のおくれによる影響ということでございますが、建築工事と上手に調整を図りながらロスタイムなく着工ができるように、既にこれは発注済みの工事でございます。



31年度への繰り越し工事となった場合でも、開館の準備期間内に全て工事を完了させたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（君島一郎議員） 16番、伊藤豊美議員。

○16番（伊藤豊美議員） 続きまして、(1)の⑤について再質問を行います。

協議を行った地元団体とは、どのような団体なのか伺います。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

建設部長。

○建設部長（稲見一美） 協議を行ってきた地元の団体といたしましては、黒磯駅周辺地区の活性化について話し合っていたいておりますえきっぷくろいそという団体でございます。

以上です。

○議長（君島一郎議員） 16番、伊藤豊美議員。

○16番（伊藤豊美議員） わかりました。

このような状況について、市民からはどのような意見が上がっているのか伺います。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

建設部長。

○建設部長（稲見一美） 工期の、工事の完成が出来るということに関しまして、えきっぷくろいその皆様からは心配や不安の声が寄せられておりました、完成時期の変更について丁寧に説明しながらご理解を求めているところでございます。

○議長（君島一郎議員） 16番、伊藤豊美議員。

○16番（伊藤豊美議員） それでは、(2)（仮称）駅前図書館について、順次再質問を行いたいと思っております。

(2)の1について再質問を行います。

建築工事範囲の支障物移転とは何か伺います。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

建設部長。

○建設部長（稲見一美） 大きな支障物は、駅舎への受電設備でございます。

この支障物の移転に関しましては、市から移転補償費をJRにお支払いいたしまして、JRがその後、移転工事を東京電力に発注するというような関係でございまして、協議とか工事発注の手続、何段階か踏むような形になってしましまして、当初の見込より日数を費やしてしまったということでございます。

○議長（君島一郎議員） 16番、伊藤豊美議員。

○16番（伊藤豊美議員） 先ほど、2と4については関連があるので一括で答弁をするということでありましたので、私のほうからも一括で再質問をしたいと思います。

先ほど、高力ボルトが全国的に品薄になった原因は何か伺います。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

建設部長。

○建設部長（稲見一美） 高力ボルトの全国的な品薄の情報は、8月ぐらいからうわさとして流れておりました、秋口の工事にいろいろなところで影響があったということがございました。この状況を受けまして、国土交通省が緊急の調査を行いまして、11月22日にプレス発表を行ったところでございます。

この原因としましては、東京オリンピック、それからそれを当て込んだ再開発事業が非常に活発に動いていて、鉄骨需要の旺盛な状況がずっと続いているということでございます。

また、この原因といたしましては、ボルトの材料となる鋼材が、機械、それから自動車などにも非常に活況を呈しているということで、そちらに材料が回ってしまったということがありまして、ボルトの需要に追いついていないということでございます。

また、もう一つは、溶接工、東京オリンピックの特需等によりまして溶接工が大変不足しているということで、鋼材の継ぎ手部分を溶接からボルト継ぎ手に変更したというようなことで、需要がまた非常に大きくなっているということが原因でございます。

また、国土交通省のこの調査では、全国的に83%の工事において工期に影響が出てきているというような報告もされております。

本来でしたら、ボルトの製作会社は4月から8月ぐらいまでの一番発注の少ない時期に在庫をためて、秋口に出荷するという形だそうだったんですが、オリンピック特需によりまして7月ごろ1つのピークが来てしまいましてボルトが不足してしまったということでございます。

私どもで使うボルトは、2万数千個のボルトが必要になるということで、残念ながら納期が4倍ぐらいにおくれてしまっているという状況でございます。

以上です。

○議長（君島一郎議員） 16番、伊藤豊美議員。

○16番（伊藤豊美議員） また高力ボルトの話になりますが、高力ボルトの納入がおくれることについて、どのような対応を行っているのか伺います。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

建設部長。

○建設部長（稲見一美） 私どもで、何度もいろいろな確認とか要請をしながら高力ボルトの早い納品をお願いしているところであります。

経過を申し上げますと、9月にボルトをつくっております大手の会社から、取引先に文書が届きました。受注の手続について非常におくれるというような文書でございました。

10月13日には、1次下請の鉄鋼会社から文書が

まいりまして、創業以来このようなことがないような状況でボルトの納入ができていないんだというようなことで、おくれるというようなお話がございまして、私どものお願いしているJVからも市長宛てに文書が届きまして、私どもでは11月5日に高力ボルトの納期延期に関する質疑書ということで関係者当てに文書を送りました。これで行き届かないことを質問しておりますけれども、最終的には11月14日に大手のボルトをつくっている会社、それからその卸会社、1次下請の鉄鋼会社、それから建築JVの会社とお話し合いをしまして、何とか早く入れていただきたいということでお願いをしてまいりました。

私どもでこのボルトの発注をしていますのは9月の初めということで、現在、4月以降のボルトの発注しか受け付けないよということで業界はやっているようですが、それ以前の発注ということでやっておりますので、何とか早い納入ということを期待しているところでございます。

○議長（君島一郎議員） 16番、伊藤豊美議員。

○16番（伊藤豊美議員） それでは、3について伺いをいたします。

市職員による工事監督員とは、どのような資格を有しているのか伺います。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

建設部長。

○建設部長（稲見一美） 1級建築士の資格を持っております。

以上です。

○議長（君島一郎議員） 16番、伊藤豊美議員。

○16番（伊藤豊美議員） 工事施工監理業務の業務内容とはどのようなものなのか伺います。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

建設部長。

○建設部長（稲見一美） 施工監理業務でございま

すが、これは図書館の設計業者に委託をしております。

駅前図書館の設計意図を正確に、しかも迅速に具現化していただけるというのは、設計者のみということでございまして、高度な技術力をもって工事の監理業務を行っているということでございます。

○議長（君島一郎議員） 16番、伊藤豊美議員。

○16番（伊藤豊美議員） 工事がおくれることにより、さらに工事費が増額になることはないのか伺います。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

建設部長。

○建設部長（稲見一美） 建設工事がおくれることによって金額が増額になるのではないかとというようなご心配でございますけれども、受電設備がなかなか移転できなかったということで、現場の事務所もそれに合わせて工事を行うような形でやっておりますので、この工事のおくれによる工事費の追加というものはないというふうに考えております。

○議長（君島一郎議員） 16番、伊藤豊美議員。

○16番（伊藤豊美議員） まちなか交流センター、そして駅前図書館、両施設とも市民が早い、早期のオープンを心待ちにしているので、早期完成をすることを望みます。それで、この項を終了いたします。ありがとうございました。

質問を終わります。

○議長（君島一郎議員） 以上で那須塩原クラブの会派代表質問は終了いたしました。

—————◇—————

◇ 眞 壁 俊 郎 議 員

○議長（君島一郎議員） 次に、志絆の会、17番、

眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） それでは、皆さん、おはようございます。

志絆の会、眞壁俊郎でございます。早速、会派代表質問を始めます。

1、新庁舎建設について。

新庁舎建設については、平成26年に庁舎建設市民検討懇談会や庁内検討組織を設置し、新庁舎に関する調査や研究を本格的に開始いたしました。

平成27年3月に、市民アンケート結果やパブリックコメント、市議会からの提言事項等を踏まえ、新庁舎建設基本構想を策定いたしました。4月には庁舎準備室を設置し、新庁舎建設基本計画の策定に向けた検討を開始いたしました。

そのような中で、君島市長は、さきの市長選挙において新庁舎建設事業の延期を大きな公約の一つに掲げ、当選されました。

その後、市長就任後の平成28年3月25日の第10回庁舎建設市民検討懇談会において、新庁舎建設時期については、東京オリンピック等の影響による資材の高騰や合併特例債の発行可能期間の延長などを踏まえ、東京オリンピック以降に延期することが適当であると判断し一時検討を中断いたしました。平成29年に入って、合併特例債の発行可能期間を見据えると、東京オリンピック以降、速やかに建設工事を着手する必要があることから、庁内組織を立ち上げ、新庁舎建設基本計画の策定に向けた検討を再開いたしました。

平成30年4月に、企画部企画政策課内に庁舎準備室を設置するとともに、那須塩原市庁舎建設市民検討懇談会を立ち上げ、基本計画の策定に向けた本格的検討を再開していることからお伺いするものでございます。

(1)平成28年3月に新庁舎建設時期を延期しましたが、理由についてお伺いいたします。

(2)前回の庁舎建設市民検討懇談会が10回開催されたが、検討された内容についてお伺いをいたします。

(3)本年度、新庁舎建設基本計画の策定に向けた本格的な検討を再開した理由についてお伺いをいたします。

(4)前回の庁舎建設市民検討懇談会で示された基本構想及び基本計画作成段階で示された内容から変更、修正されたところはどのようなところなのかお伺いいたします。

(5)新庁舎建設基本計画の策定スケジュールについてお伺いをいたします。

(6)新庁舎建設における概算建設費についてお伺いをいたします。

(7)新庁舎建設における財源についてお伺いをいたします。

(8)新庁舎建設における事業発注手法及び建設スケジュールについてお伺いをいたします。

(9)既存本庁舎の取り扱いについてお伺いをいたします。

(10)新庁舎建設による県北の中心都市にふさわしい拠点づくりについてお伺いをいたします。

以上です。

○議長（君島一郎議員） 17番、眞壁俊郎議員の質問に対し答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） 志絆の会、眞壁俊郎議員の会派代表質問にお答えをしております。

1の新庁舎建設について、順次お答えをいたします。

初めに、(1)の平成28年3月に新庁舎建設時期を延期した理由についてお答えをいたします。

平成28年当時におきましては、2020年東京オリンピック・パラリンピックなどの影響により、建築費や労務単価の高騰が伝えられていたこと、ま

た合併特例債の発行可能期間も平成36年度までと延期されたことなどを踏まえまして、新庁舎の建設時期を2020年東京オリンピック・パラリンピック以降に延期することが適当であると判断をしたところであります。

次に、(2)の前回の庁舎建設市民検討懇談会で検討した内容についてお答えをいたします。

前回の懇談会では、平成26年度と27年度の2カ年度にわたり、新庁舎建設に向けた検討を重ねていただきました。

平成26年度におきましては、現在の本庁舎の課題や新庁舎の必要性について整理をするとともに、求められる機能や基本的な方向性、規模、整備位置、財源、整備時期などについて検討をいただき、平成27年3月に新庁舎建設基本構想を策定いたしました。

平成27年度におきましては、基本構想に基づき整備に関する方向性や配置する部局、支所機能、庁舎の構造、各庁舎の跡地利用などについて検討をいただいたところであります。

次に、(3)の本年度、新庁舎建設基本計画の策定に向けた本格的な検討を再開した理由についてお答えをいたします。

本市が県北の中心都市にふさわしい拠点づくりを推進するためには、新庁舎は欠かせない施設であると考えていること、また、合併特例債の発行期限を見据え、基本構想に掲げた利便性のさらなる向上、防災拠点の強化、まちづくりのさらなる推進を図るための検討を進める必要があると判断をし、再開をしたところであります。

次に、(4)の前回の庁舎建設市民検討懇談会で示した基本構想及び基本計画作成段階で示した内容から変更、修正したところについてお答えをいたします。

主な変更、修正をした点につきましては、市民

の安全安心な暮らしを守るという観点から、制振構造を免震構造に変更をしたこと、またこれに伴い、コスト削減の観点から、2棟構成を1棟構成に変更した点が挙げられます。

また、基本構想の策定から若干期間が経過したため、新庁舎建設後における既存本庁舎の取り扱いや建設スケジュールにつきましても、現状に合わせた変更、修正を行っております。

次に、(5)の新庁舎建設基本計画の策定スケジュールについてお答えをいたします。

本日から開始をいたしました基本計画素案のパブリックコメントが終了した後、来年1月にそのご意見を参考に修正等を加え、来年3月の市議会定例会におきまして基本計画のご審議をいただきたいと考えているところであります。

次に、(6)の新庁舎建設における概算建設費についてお答えをいたします。

概算建設費につきましては、外構工事を含む概算建設工事費となりますが、約97億8,000万円を見込んでおります。

次に、(7)の新庁舎建設における財源についてお答えをいたします。

財源につきましては、新庁舎整備基金、合併特例債、合併振興基金、国・県等の補助金、交付金を有効に活用することを想定しております。

次に、(8)の新庁舎建設における事業発注手法及び建設スケジュールについてお答えをいたします。

まず、事業発注手法につきましては、合併特例債の発行期限である2024年度までの確実な竣工を目指し、本市にとって適切な時期、適切な手法で建設工事を発注することができるよう、建設工事費の動向等を見きわめながら、さらに検討を進めてまいりたいと考えております。

また、建設スケジュールにつきましては、新庁舎の竣工を2023年度内に設定し、本年度中に基本

計画の策定、2019年度、2020年度に設計業務、2021年度から2023年度に建設工事を着実に進めていくことを想定しております。

次に、(9)の既存本庁舎の取り扱いについてお答えをいたします。

既存本庁舎の取り扱いにつきましては、空調設備、電気設備、給排水設備などの老朽化が進行をしていることから、今後も建物を維持するためには多くの費用が発生することが想定されること、また利活用する場合には、必要に応じて改修費用の発生が見込まれることから、建物を解体し、跡地は売却することを基本として検討を進めているところであります。

最後に、(10)の新庁舎建設による県北の中心都市にふさわしい拠点づくりについてお答えをいたします。

新庁舎の建設計画地である那須塩原駅周辺は、新幹線や在来線のほかバスやタクシーなど本市だけでなく周辺自治体を含む公共交通網の結節点としての役割を担う場所になっております。各種関連計画、関係機関との連携や民間活力の導入を図りながら、新庁舎周辺にさまざまな施設を誘導していくことで、県北の中心都市にふさわしい拠点づくりを進めてまいりたいと考えております。

答弁といたします。

○議長（君島一郎議員） 17番、眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） それでは、全て関連がありますので、一括して再質問をしたいと思いません。

新庁舎建設時期を延期した理由についてでありますが、先ほどもありましたように東日本大震災の復興や東京オリンピックの開催に伴う建設費の高騰、これが第一の理由だと思っております。

もう一つが、やはり先ほど合併特例債の発行期限が平成36年、2024年まで延長されたことが主な

理由だと思います。

そこで、市長は、さきの市長選挙において、新庁舎建設事業の延期を大きな公約の一つに上げて当選されたわけですが、市長選において新庁舎建設事業のこの延期を掲げた理由について、再度お伺いいたします。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） 先ほど答弁の中でも申し上げましたとおり、人件費の高騰、資材の高騰、そういったものがございました。

オリンピック後に延長しようということで私は訴えてき、そして市長就任後、同様の形で延期をさせていただいたという経過がございますので、その辺については、私は公約どおりということで考えております。

○議長（君島一郎議員） 17番、眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） 今、市長、公約どおりというお言葉をいただきました。

やはり、市民の皆さんは、この建設、多分市長選挙のときに30億ぐらい高くなるということで、そんなに高くなるんだったら、当然今度の市長に頑張ってもらって安くつくってもらおうと、そういう気持ちが大いにあったのではないかと私はちょっと考えます。

そこで、先日、大田原市の新庁舎が来年1月4日開庁に向けた工事が順調に進んでいるという下野新聞さんの記事がありました。

延べ床面積約1万㎡、総事業費約57億円、那須塩原も新庁舎建設、これ延期がなければちょうど平成30年度完成予定でしたので、ちょうど同じような建設時期になっていたのかなと私は思っております。

当初の新庁舎建設の延べ床面積については1万9,000㎡、大田原の庁舎が、先ほども言いました

が1万㎡であります。金額を単純に計算すると、那須塩原で建設した場合やはり100億円を超えていた、これ大田原に、大田原の1㎡の単価に合わせると当然100億円超えたというような状況でございました。そうすると、延期の判断は、私は正しかったと、このように思います。

そこで、ちょっとお伺いいたしますが、本年度、新庁舎建設基本計画の策定に向けた本格的な検討を再開しました。先ほど理由、ありました。その理由につきましては、私もそうだと思っております。

先ほども私、言いましたが、さきの市長選挙で、多くの市民の皆様方が、建設費を安くしてくれる私は市長を選んだのだと私は思っております。今回、示されている概算費、97億8,000万円ですが、先ほどは市長、公約は果たしているということでございましたが、私は果たしていないのではないかと思います、この97億8,000万円、どのように考えているのかお伺いいたします。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） 私の公約どうのこうのという話でございますけれども、この97億8,000万というのはあくまでも概算工事費ということでございまして、これから発注するに当たっては競争原理も働いてくるということでもございますし、いずれにしても私どものほうとしては、先ほど申し上げました新庁舎、利便性のさらなる向上、防災拠点の強化、まちづくりのさらなる推進、この3つを掲げているわけでありまして、那須地域の中心都市としてふさわしい庁舎をこれからも建設をしまいたいと考えております。

特に公約をたがえているということは、先ほども申し上げましたとおり、一切私はないと考えております。

○議長（君島一郎議員） 17番、眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） わかりました。

言い方とすれば、確かに当然オリンピック以降に建設をするという判断だったので、公約は多分違反していないのかと思いますが、実際の話は、私は金額の話なんだろうと、このように思っております。ちょっと続けます。

それでありますが、市民の皆様に対してであります。建設、このまま新庁舎の建設スケジュールどおり計画を実施すると、本年度、先ほどもありましたが基本計画の作成、2019年、20年度で基本設計、そして実施設計、またあと非常に重要な用地買収、この辺かと思っております。そして、2021年、2022年度で建設工事、2023年度新庁舎開庁、これを多分目指していくんだらうと思っております。

現状、今後においても建設費の高騰がおさまらない、こういう状況であると私は思っておりますが、そういう中での市長の決断でありますので、しっかり市民の皆さんにこの内容につきまして、公約は撤回していないということではありますが、やはり選挙で約束した内容につきまして、経緯や今回建設に踏み切る決断をしたことについて、市長みずから、これ責任大いにあると思っておりますので、今後、市民の皆様に対してどのような対応を図っていくのかお伺いいたします。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 市民の皆様へのご説明ですが、先ほど答弁にもありましたように、本日から1カ月間パブリックコメントを実施いたします。また、来週から市内7地区を回りまして説明会等の開催も予定をしているところでございます。

その他、市民の皆さんからのお問合せ等については、私どもの庁舎準備室のほうでお受けをしながら丁寧な説明をさせていただきたいというふう

に思っております。

○議長（君島一郎議員） 17番、眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） きょうからパブリックコメントも今、始まるというお話です。そしてまた、7地区の地区で説明会始まるということでございます。これは理解いたします。

この市民の意見を聴取すること、非常に大事だと、大事というか一番私は重要だと思っております。

そんな中で、先ほどもありましたがパブリックコメント、きょうから始まりますが、市民の皆様の中で、このパブリックコメントということを理解している市民の皆さん、私、数かなり少ないと、このように思っております。そんな内容で、このパブリックコメントを実施したから市民の意見を十分に聞いたとはならないと私は思っております。

先日なんです、2人の市民の方から一緒にちょっと話をしていたのですが、新庁舎建てるのということを私に質問を投げかけてきました。市長は建てないと言っていたじゃないですかと、こういうことを言いました。また、なぜ今になって建てるのかという、単純なこれも質問であります。私は、だから市長の公約は、オリンピック以降に延長して建てるということだったんじゃないのということをお話しましたが、ちょっと理解を得られませんでした。こういう市民、私たくさんいると思うんです。

先日、新庁舎、塩谷の新庁舎建設の説明会がちょっと報道されておりましたが、参加者ゼロ、ちょっと私もびっくりしたところでありますが、那須塩原市においても、まだまだこの新庁舎の建設が行われるということを知らない市民がたくさんいると思います。これについてはしっかり周知をして理解を得ること、これが大変重要だと考えております。

再度になりますが、7地区で説明会を行うということではありますが、どんな形でどういう人を対象に、どういう周知をしてこの説明をするのかお伺いいたします。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 現在、予定しております説明会は、各地区の自治会長さんに直接ご連絡を差し上げて、地区ごとに実施するということにあります。

また、パブリックコメントにつきましても、通常、本庁、支所、出張所等の窓口に掲載用の冊子を用意し、またホームページ等で閲覧ができるような形にするわけなのですが、今回、庁舎につきましては各公民館等にも閲覧用の冊子、それからチラシ等を用意し、チラシ等はできるだけいろんなところに置きまして、こういうことでやっていますよ、ここで見られますよというような周知とあわせて行う予定でございます。

○議長（君島一郎議員） 17番、眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） わかりました。

7地区の説明会、自治会長に連絡をしたということですが、私はこれ初めて今、聞いたんです。多分そんな状況なのかなと私思うんですが、今回多分、当然これ自治会長さんだけでなくて地区の方も一緒ですよ、この辺ちょっと確認したいんですけども。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） そういうことでございます。

○議長（君島一郎議員） 17番、眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） そういうことです、私がわからないんですから、多分ほかの人はもう多分聞いていないんじゃないかと思うんですが、

この辺やはりしっかり周知を、自治会長さんに任せるだけじゃなくてしっかり周知するべきだと私は思うんですが、この辺もう一度確認お願いします。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 周知については、しっかりとさせていただきたいと思います。

○議長（君島一郎議員） 17番、眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） あと、先ほどパブリックコメントの話もありました。

公民館にその用紙もあるので、そちらへ出してくれというようなお話ではありますが、先ほど私も言いましたように、パブリックコメントということ自体を市民の皆様はわからないと思うんですが、逆に部長、どのくらいそれわかっているとか把握しているんですか。ちょっとお伺いしたいんですが。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） パブリックコメントが理解されているか、されていないかということでございますが、本市では、もうパブリックコメントも始まりまして、ちょっと年数は忘れましたが、当然相当年数がたってきている中で、さまざまなことも計画等についてパブリックコメントも行っている。また、計画によって違いますが、ご意見等も計画によっては相当数いただいているというような経過もありますので、知っているか、知らないかという判断はなかなか難しいところでございますが、パブリックコメントも一つの有効な手段であるというふうに考えております。

○議長（君島一郎議員） 17番、眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） 当然、これ行政、どちらでもやっている話なんですけれども、私の感想



で言わせると、やはりパブリックコメント、ある一定の方が質問しているというような形が非常に見えているので、十分この辺もこれから検討していただきたいなど、このように思います。

○議長（君島一郎議員） 質問の途中ですが、ここで10分間休憩いたします。

休憩 午前11時06分

再開 午前11時16分

○議長（君島一郎議員） 休憩前に引き続き会議を開きます。

17番、眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） それでは、再質問を再開いたします。

新庁舎建設基本計画の策定スケジュールについてであります。ことし5月10日に第1回の市民検討懇談会が開催されまして、11月28日まで5回の開催がされております。平成30年度内、新庁舎建設基本計画の策定に向けたスケジュールが進んでいるということかと思っております。

先日ですが、私、市民検討懇談会を傍聴いたしました。委員の方からもこれ意見がありました。スケジュールがこれタイトじゃないかという委員の意見がありました。私もちょっとそう感じましたので、その辺。

また、今まであった懇談会の中で、私たちの意見が余り反映されていない、こんな意見がありました。ちょっとこの辺、どのように捉えているのかお伺いいたします。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。  
企画部長。

○企画部長（藤田一彦） スケジュールがタイトだという、全体計画のスケジュールという意味です

か、懇談会のスケジュールがタイトだという。

懇談会につきましては、そうですね、5月からこれまでに5回ほど実施をしておりますので、大体月に1回のペースで開催をさせていただいております。委員の皆さんにはご苦勞をおかけしておりますが、内容的には極めてタイトに、急いでというような感じだとは思っておりません。中身についてはしっかりご審議をいただいているというふうに認識をしております。

それから、委員の方のご意見、それぞれ委員の皆さん、いろんな意見があります。議員の今、質問にあったように、なかなか意見が反映されていないんじゃないかという意見をおっしゃった委員さんもいらっしゃいますし、よく最終的にまとめられたという意見をおっしゃる委員さんもいらっしゃいました。

意見がなかなか反映されていないというご意見もお聞きし、中をよく聞いてみると、おっしゃっている思いの多くは、実は基本計画じゃなくて基本設計の中で反映すべき内容等も含まれたものの、それが計画には出てこないというようなところも含まれていたというふうに思っております。

○議長（君島一郎議員） 17番、眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） 今、意見が反映されていない部分については、これからの基本設計、実施設計の中でという話がちょっとありました。

その中で、この懇談会なんです。この基本計画ができた段階で取りやめるというようなお話を聞いたんですが、この辺どうなんでしょうか。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。  
企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 現在の懇談会については、基本計画を策定するための懇談会であるということでございます。

○議長（君島一郎議員） 17番、眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） そうしますと、この懇談会で基本計画が決まれば、この懇談会、解散という中で、やはり委員さんも、先ほどこれから基本設計、実施設計の中で取り入れるというお話がありましたので、ちょっとこの辺なんですけど、今後この懇談会、その形に、建設までに向けてそういう懇談会というのは設置する考えはあるのか、その辺だけお伺いします。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 現在あるような形での懇談会を設置する予定はございません。ただ、懇談会の委員さんには、引き続きご意見等は頂戴したいというようなお話はさせていただき予定でございます。

また、これから設計に入ってくるに当たりまして、議会のほうの特別委員会のほうからもご提言いただけるというふうにお聞きしておりますので、その辺もしっかり尊重させていただきながら進めてまいりたいと考えております。

○議長（君島一郎議員） 17番、眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） 懇談会を見たときに、やはり事務局と委員の間で結構議論がかみ合っていないような部分も見えましたので、これから3月までになるかと思いますが、ぜひ先ほども含めて、これからも意見をもらうということですので、丁寧に委員との議論を、これは重ねていただきたいと要望いたします。

それで、今回、建設費についてでありますけど、日光市、真岡市、小山市の建設費を参考にしたということですが、この辺についてちょっとご説明をいただきたいと思っております。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 基本計画を策定するに当

たりまして、やはり建設費というのは大きなウェートを占めるものでありますし、またご心配もおかけしてしまう部分でもあるんだということは事実だと思います。

ただ、実際にこの建設費というのは、基本計画の段階ではなかなかつかめないというのが現実でございます。そうした中で、近隣で、また近い中で建設しているところの庁舎の単価を参考にするというようなことは当然のことかなと。

それから、そこに昨今の建設コスト、それからまた働き方改革に伴う人件費の部分、そういったものをシミュレーションをしまして、おおむねの概算建設工事費とっておりますが、金額を算出したというところでございます。

○議長（君島一郎議員） 17番、眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） 先日、この質問をするのに日光市のホームページのほうでちょっと確認していたら、日光市が基本計画を立てたときの金額が37万ぐらいだったんです。そんなところを見ると、やはりこれ日光、真岡、小山というのを参考にしたということではありますが、大田原市の新庁舎、先ほども私お話をしましたが、延べ床面積約1万㎡、総事業費約57億円です。これを、私単純に57億円を1万㎡で割ると、1㎡の単価が57万円です。

今回、示されている那須塩原市の単価のこの49万6,000円、大田原市と比べると1㎡単価、少し私は安く見積もられているのかなというようなちょっと思いがしたんですが、これどのように感じておりますか。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 私どもで49万6,000円の単価をはじき出してありますが、現在、見込める中で適正な単価であるというふうに考えておりま

す。

○議長（君島一郎議員） 17番、眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） 適正だというお話であります。

日光市、真岡市、小山市、建設費、これはまさに参考にしておるわけでありますが、やはり那須塩原市の建設時期からだと、4年程度離れているというのも現状であります。この試算の出し方、少し私は安易ではないかなと考えております。

そんな中からすれば、やはり大田原市は実際にこの建設費が出ているわけでありますので、1㎡当たり57万円あたり、これを基準に考えるのが私は妥当でないかなと思っております。

それで、ちょっと大田原の関係を少し、これもインターネットでちょっと見たんですが、大田原市新庁舎建設工事総合評価落札方式競争入札実施要領というのがあるんですが、この中で事業費の参考額、税抜きということで42億7,000万円、これ税抜きであります、これ載っておりました。そうすると、多分大田原は、当初やはり42億7,000万円ぐらいで計画をしていたのかなと、これは私の想像であります、していたのではないかなと思っております。

大田原市は、発注方式、これから那須塩原は決めるということでありますが、E C I方式、これを採用しております。

先ほど申し上げましたが、最終的には大田原市は57億円、多分これは外構は入っていないのかなと、ちょっとこの辺はよくわからないんですが、ぜひその辺もしっかり見ていただきたいなと思っております。

そういう形になると、やはり新庁舎建設、いろんところで今、やっておりますが、10億円ぐらい高くなってくる、こういう現状も出ております。そういう面を考えると、この概算建設費、再度お

伺いいたしますが、私は見直すべきだと考えておりますが、もう一度お願いします。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 先ほども申し上げましたが、現在の中で想定できる妥当な金額であるというふうに考えております。

また、先ほど議員、大田原市の例おっしゃっていましたが、ちょっと今、聞いている中で、もしかすると私どもでいう概算の建設工事費、建設工事費の部分と総事業費の部分の違いというのはあるのかなという気はいたします。

○議長（君島一郎議員） 17番、眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） 今、部長言われましたが、建設工事費と総事業費が違うという形の中で、多分、那須塩原市のこの97億円には外構工事まで多分入っていると思います。ただ、大田原は、私もこれ新聞情報なのでわからないので、これ外構工事まで入っているかどうかよくわからないので、ちょっとその辺のしっかり確認をしていただきたいなと、このように思っております。ちょっと続けます。

建設費に大きく影響するのは、まさに延べ床面積だと思っております。今回1万7,000㎡に変更した理由につきましては、先ほどありましたように。失礼しました。この1万7,000㎡に変更したこの理由と、もう一つ、2棟建てを1棟建てにした、この変更した理由についてお伺いいたします。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 構想の段階で1万9,000㎡だったものが、今度1万7,000㎡に変わった理由でございますが、こちらについては、執務環境調査等を実施しまして、できるだけ効率的に使う研究をし、1万9,000から1万7,000㎡に変更をいた

しました。

それから、前回の検討時点で2棟構成だったものが今回1棟構成に変更いたしました。こちらについては、一番の原因はコストの縮減でございます。

もう少し申し上げますと、免震構造を取り入れましたので、できるだけその免震の、免震層をつくる面積を小さくするというようなことを図るためには、2棟構成よりも1棟構成のほうが少なくなるということでございます。

○議長（君島一郎議員） 17番、眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） 1万9,000から1万7,000に変更したのは、執務環境とかそういうものを見てということではありますが、当然これは金額を下げる部分も入っているんだろうと思います。2棟建てを1棟建てにしたのも、当然コストを下げるということだと、これは大いに理解をいたします。

それで、ちょっと金額を下げるということを考えれば、もっと大幅に下げる方法もあるのではないかと私はちょっと思いましたが、これたびたび大田原の話で申しわけないんですが、大田原市は総務省の地方債対象事業費算定基準、平成22年をもとに算定をいたしまして、1万917.49㎡、これを参考に基本構想で1万㎡に抑えるということで建設を始めたわけでありまして。

那須塩原市においても、総務省の算定基準をもとに職員数、書庫、また先ほどもありましたが市民が求めるサービス、そういうものをもとに予定より、そんなことで多分算出されているんだろうと思いますが、これからの建設時期、大幅に建設費が増加する予想されております。そのような中で、やはりこの大田原市のように、総務省の地方債対策事業算定基準、平成22年度、これをもとに算定し直して計画等も考えられるのかなと私はち

よっと思ったんですが、この辺どのように考えますか。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 現在、その算定基準に基づく数値は持ち合わせておりませんが、シミュレーションはしっかりとしております。

○議長（君島一郎議員） 17番、眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） シミュレーションをもう一度ちょっとお願いします。

○議長（君島一郎議員） 企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 私どももその算定基準に基づく試算というのは行っておりますし、今、数字は持ち合わせておりませんが、基準とかけ離れた数値では全くございません。

○議長（君島一郎議員） 17番、眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） 多分、那須塩原市で計算すると、1万2,000何がしだと思います。その基準でこれから建設を初めてはどうですかというか、金額の見直しというか平米の見直しはどうですかという私のちょっと質問なんですが、どうでしょうか。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 基準は、主に事務室、倉庫、会議室、それからロビー、それから書庫、議会関係の面積でつくるものでございまして、那須塩原市の場合にはそこにプラスアルファの機能、市民交流スペースであったり防災の備蓄品の収蔵庫であったり、そういったものを加えた数値、また利便性向上等のために、現在の基本計画の中ではATMであったり売店であったり、そういったものをプラスしてつくっております。

○議長（君島一郎議員） 17番、眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） たびたび大田原の話で、

私も大田原市役所の新築というのはまだ見ていないのですが、やはり一番近くにできた大田原市にありますので、その建物を検証するというのも那須塩原、必要ではないかと思えます。これから本当にこの新庁舎、始まりますので、先ほども市民が求めている交流センターとかそういうものも大田原にはあるかどうかはちょっとわかりませんが、しっかりこれをまず第一に検証を私はしていただきたいと思うんですが、どうでしょうか。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 私どもも、せっかく近くに先進事例ということでございますので、しっかりと検証させていただきたいというふうに思っております。

○議長（君島一郎議員） 17番、眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） しっかり私は検討していただきたいと、これは要望、強く要望いたします。

それで、新庁舎建設における財源についてであります。

合併特例債をこれは充てるようになっておりますが、仮にこの新庁舎建設、建設費等でこういう状況の中で建設をおくらせて発行期限に間に合わない場合が出る場合に、庁舎建設に充てる合併特例債を、これほかの事業に全額充てるということは可能なのか、この辺ちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 仮定のお話ではございますが、合併特例債はほかのものにも使えるのかと。合併特例債については、新市建設計画に位置づけられた事業に充てるということになっているものでございます。

○議長（君島一郎議員） 17番、眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） 合併特例債は、そうすると庁舎に充てなくても全額というか、そんな感じかなと思えます。

今の答弁からすると、やはり合併特例債、発行期限がありますので、新庁舎建設に対して全て、全てというか全部充てなくても、合併特例債につきましては当然非常に便利というか一番安い金利で、金利というか金額でできるものでありますので、そういうことでありますので、ぜひ考えていただいて。失礼いたしました。合併特例債は新庁舎に充てなくても全額利用できるということでありませう。

そういう意味で、新庁舎建設、最大限コスト削減を考えれば、建設費の下落、これを待つことも必要ではないかと私は思っております。

第2次那須塩原市総合計画の前期基本計画に置けるこの重点プロジェクトにおいて、新庁舎建設準備事業とありますので、建設費が高騰を続ける中で、これ早期に始めるのは、合併特例債の期間内で建設をするということが、やはり市民に私は理解が得られないのかなと非常に強く懸念しております。

多分、今97億8,000万円ということですが、実際にこれこの期間で建てると、私は110億を超えるんじゃないかなと、これは予想であります、これは誰もわからないと思いますが、そういう意味では、市長が一番最初に言ったオリンピック以降、安くなったときに始めようというのが、私は一番いいのかなと思っております。もう一度その辺お願いします。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） 庁舎建設を進めようと決断したのは私でもありますし、当初の公約どおり、

2020年の東京オリンピック・パラリンピック以降に建設をしますと、私はつくらないとは一切言ってきておりませんので、建設に向けてはちょっと延期をしましょうというお話をしたと。

その中で、1つ要件として出てくるのは、合併特例債を使いますよという話は前からしていたはずですし、初めの計画の中でも合併特例債の充当といったものは間違いなく考えておったということですし、平成36年度の期限までには、私はつくるといふような決断を今回させていただいて、2021年から2023年度までのこの期間の中で新しい庁舎をつくるということで、これからも進めさせていただきたいと思います。

○議長（君島一郎議員） 17番、眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） この計画の中で、今、市長は建てるということでございます。

先ほどから私は何度も言っておりますが、やはり市長は公約違反ではないということでありますが、私は安く建てるというのが本当の意味の公約だったんじゃないかなと思っておるんですが、その辺、もう一度ちょっとお伺いしたいんですが。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） これから50年、100年活用していく施設であるということ、それから那須地域の中心都市にふさわしい庁舎であるということ、安かろう、悪かろうではもたないというふうには思っていますので、それなりの庁舎はつくらなければならないと考えております。

○議長（君島一郎議員） 17番、眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） わかりました。

まさにそのとおりだと思います。安かろう、悪かろうなんていう建物をつくったらおしまいですよ、当然。

ぜひ、これからまさに市民の皆様に説明をして

理解をもらうというお話でございますので、しっかり市民の皆様が理解、そして納得できるような説明を今後していただきたいと、このように思います。

既存庁舎の関係の取り扱いでございますが、これについては解体、跡地の売却ということでございますが、解体費と売却費の金額についてお伺いいたします。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 解体と売却の金額ということでございますが、まだ金額が幾らだということとは決まっているわけでも何でもございませんが、ざっと一般の単価を掛けますと、現在の単価で解体をし、売却をすると、黒にはならない、逆に申し上げますと、場合によっては解体費のほうが高くなってしまふという試算はございます。

○議長（君島一郎議員） 17番、眞壁俊郎議員。

○17番（眞壁俊郎議員） 懇談会では、多分1億ぐらいマイナスになるというお話が出ていたかと思えます。そういう状況でありますので、やはりこの庁舎、利用価値も私はあると思いますので、この辺については十分これからやはり検討して、赤にならないように、そういう対応をしていただきたいなと思っております。

それでは、最後になりますが、新庁舎建設事業を、第2次那須塩原市総合計画の前期基本計画における重点プロジェクトの都市力成長プロジェクトが目指すまちの姿、県北の中心都市にふさわしいまちづくりで、那須塩原駅周辺地区都市再生整備計画事業や市道新南下中野線道路改良工事などとともに、県北の中心市にふさわしい拠点づくりの推進に欠かせない重要な事業であります。また、那須塩原市においては、合併後のこれはまさに悲願でもあります。

そのために、今後、多くの市民の皆様への説明は不可欠です。そして、理解され、納得を得ることが今後、建設を始める大変重要な課題であり、これは君島市長の責任でもあります。

以上で、志絆の会を代表しての質問を終わりにいたします。

ありがとうございました。

○議長（君島一郎議員） 以上で志絆の会の会派代表質問は終了いたしました。

◇ 相馬義一議員

○議長（君島一郎議員） 次に、敬清会、19番、相馬義一議員。

○19番（相馬義一議員） それでは、敬清会、会派代表質問に入ります。

人口減少が進む中、君島市長の市行財政運営についてお聞きいたします。

日本の人口の推移を見ますと、1910年に約5,100万人、1940年には約7,300万人と増加し、1945年、これは昭和20年でございますが、戦争の影響と思われませんが約100万人減少したものの以降は増加し、2010年、平成22年には約1億2,800万人となりました。しかし、2015年には1億2,700万人と減少し、現在は1億2,600万人となり、今までに経験したことのない速度で人口の減少が進行しております。

本市においても、平成17年新市誕生時には約11万4,500人でスタートし、平成23年には約11万8,000人まで順調に増加してまいりましたが、それをピークに人口減少が始まり、平成27年には約11万7,000人、現在は約11万6,000人と人口減少が進んでおります。

11月13日の全員協議会で、平成31年度当初予算

編成においてお示しをいただきました。その中で、中長期的には生産年齢人口の減少により税収の落ち込みがと記載されております。

君島市長においては、結婚サポート事業や思い出のふるさとごはん事業、企業誘致に対する助成等、人口減少対策を行っておりますが、人口減少は自治体にとって最大の課題と思われることから、君島市長の見解を伺います。

まず、(1)として、人口減少対策について、①人口を減らさないための施策について。

②生産年齢人口の減少による税収減について。

②新庁舎建設に合わせて市の中心地となる那須塩原駅周辺の整備について。

①県北の中心市の顔となる駅周辺整備について。

②都市計画道路3・3・2黒磯那須北線の大学通りから国体道路間の道路整備について。

③都市計画道路3・3・4東那須野東通りの道路整備について。

④区画整理外の大学通り沿いの下水道整備について。

(3)那須塩原市になり13年になりますが、旧3市町の一体感についてお伺いします。

(4)子どもや女性が犯罪に遭わず安全で安心して暮らせるまちづくりについての見解をお聞きします。

○議長（君島一郎議員） 19番、相馬義一議員の質問に対し、答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） それでは、敬清会、相馬義一議員の会派代表質問にお答えをしてまいります。

まず、1の私の市行財政運営について、順次お答えをいたします。

初めに、(1)の人口減少対策についてお答えをいたします。

まず、①の人口を減らさないための施策につい

てであります。現在、第2次那須塩原市総合計画に掲げる基本政策、基本施策を推進しているほか、那須塩原市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき雇用や結婚、子育て環境の充実など定住促進に向けた重点施策を推進しているところであります。

また、那須地域定住自立圏や八溝山周辺定住自立圏の共生ビジョンに基づく人口減少対策に取り組んでおり、引き続きこれらの事業推進を図ってまいりたいと考えております。

次に、②の生産年齢人口の減少による税収減についてお答えをいたします。

生産年齢人口の減少は、企業活動の縮小、地域消費の縮減などを招き、結果として税収の減少につながるものと考えております。

本市の市税収入につきましては、中長期財政の見通しにおきまして、平成29年度の190億900万円の収入額が、平成38年度には171億4,000万円と18億6,900万円の減収になると試算をされております。減収の要因といたしましては、企業活動の縮小による法人市民税の減収、法人から給与を支給されている個人所得の減が考えられます。

次に、(2)の新庁舎建設に合わせて市の中心地となる那須塩原駅周辺の整備について、順次お答えをいたします。

初めに、①の県北の中心市の顔となる駅周辺整備についてお答えをいたします。

東北新幹線が昭和57年に開通し、商業地域として想定した西口駅前大通り周辺は、現在も駐車場や農地が多い状況にあります。また、駅前広場は整備から30年以上が経過し、送迎車両の増加等もあり、さらなる安全性の向上が必要であると考えております。

駅周辺整備や新庁舎建設との相乗効果により、民間事業者の進出を促すような整備を検討してま

いりたいと考えております。

次に、②の都市計画道路3・3・2号黒磯那須北線の大学通りから国体道路間の道路整備についてお答えをいたします。

本路線は、現在、栃木県が黒磯那須バイパス整備事業として、上黒磯地区から那須町高久地区を結びます延長2,070mの整備を進めております。

ご質問の大学通りから国体道路間の整備につきましては、那須塩原駅周辺地区の拠点化を図る上で大変重要であると認識をしており、黒磯那須バイパス整備の進捗状況を見きわめながら県へ要望してまいりたいと考えております。

次に、③の都市計画道路3・3・4東那須野東通りの道路整備についてお答えをいたします。

本路線は、県道東小屋黒羽線の起点振りかえ及び都市計画道路3・3・2号黒磯那須北線までの路線延伸による整備を平成26年度から栃木県へ継続して要望しているところであります。

また、要望実現に向け、今年度、那須塩原駅周辺地区道路整備等検討会議を大田原土木事務所と立ち上げたところであります。

次に、④の区画整理外の大学通り沿いの下水道整備についてお答えをいたします。

本路線につきましては、公共下水道事業計画区域であります区画整理境から都市計画道路3・3・2号黒磯那須北線までの整備は既に完了をしております。事業計画区域外であります黒磯那須北線以北につきましては、現在のところ整備の予定はございません。

次に、(3)の旧3市町の一体感についてお答えをいたします。

これまで、市主催のほか各地域の団体が実施をいたします行事、イベント等を通じた市民交流や各種団体の統合、連合組織化等を推進するとともに、市政懇談会等でのご意見、そしてご要望



を伺いながら、一体感の醸成に努めてきたところ  
であります。

今後も、各地域の歴史や特性などを十分に尊重  
しながら、那須塩原市のまちづくりを推進してま  
いりたいと考えております。

最後に、(4)の子どもや女性が犯罪に遭わず安全  
で安心して暮らせるまちについてお答えをいたし  
ます。

子どもや女性に特化したものではありませんが、  
ことし1月から10月までの市内における犯罪の発  
生件数は469件で、前年同期と比較して110件減少  
をしている状況にあります。

本市では、那須塩原市犯罪の少ない安全で安心  
なまちづくり条例の基本理念に基づき、関係機関  
と連携しながら市民の防犯意識の啓発や地域主体  
の防犯活動の推進に取り組んでいるところであり  
ます。

犯罪を未然に防止するためには、市民一人一人  
が防犯に対する意識を高め、犯罪が発生しにくい  
環境をつくっていくことが重要であり、今後にお  
きましても引き続き啓発活動を初めとする防犯施  
策を推進してまいりたいと考えております。

以上、答弁といたします。

○議長（君島一郎議員） 質問の途中ですが、ここ  
で昼食のため休憩いたします。

午後1時会議を再開いたします。

休憩 午前11時59分

再開 午後1時00分

○議長（君島一郎議員） 休憩前に引き続き会議を  
開きます。

19番、相馬義一議員。

○19番（相馬義一議員） それでは、再質問に入

ります。

この質問について、皆様ご承知かと思いますが、  
私、平成29年の3月議会に同様の、ほぼ同様の質  
問をしております。そのときは、実は君島市長が  
ちょっと体調の問題がありまして欠席をし、副市  
長の片桐副市長が答弁をされていました。そうい  
う中での今回、同じような質問を出したわけでご  
ざいますが、その辺をお答えする執行部のほうに  
もひとつご理解をしていただきたい、そのように  
思います。

まず、那須塩原市第2次総合計画の将来像とし  
て、「人がつながり新しい力が湧きあがるまち那  
須塩原」というのを提案をし、これに沿って将来  
像として進んでいくわけでございます。

人口減少、私、あるいは私どもの会派では非常  
に重要課題だと思っております。そのような中か  
ら、毎回この再度質問するわけでございますが、  
今回は人口を減らさないための施策ということで  
質問しておりますが、前回は人口をふやすための  
施策ということで質問をしたかと思えます。

残念でございますが、答弁等については、もち  
ろん1年10カ月、9カ月ぐらい前の話でございま  
すので、そんなに答弁が変わることもないことだ  
とは思いますが、ほぼ同様の答弁をいただきました。

まち・ひと・しごと創生総合戦略の中でやる子  
育て支援、もちろん出会いから結婚、その辺を重  
点的に市長はこの施策として上げ、取り組んでき  
ておると思います。

もう一度ちょっと確認をとらせていただきます  
が、この結婚サポートセンター等々の状況につい  
て少しお伺いします。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 結婚サポートセンターの

状況ということですが、縁結び事業という事業を行っております。

こちらのほう、現在、11月の段階ですが、登録者が169名おります。ちょっと男女別で申し上げますと、男性が123、女性が46ということで、なかなかマッチングをするのには難しい、ちょっとバランス的には差が生じているという状況でございます。

また、マッチングの件数ですと、平成29年度、昨年度のマッチングの件数が42件、今年度はやはり11月の数値になりますが、11月までの数値になりますが、30件ほどマッチングをさせていただいているという状況でございます。

○議長（君島一郎議員） 19番、相馬義一議員。

○19番（相馬義一議員） 市長の人口を減らさない、あるいはふやすための施策の考え方の中で、市長は出生と死亡による自然の動態、これを中心にこの那須塩原市の人口減をとめる施策を考えている。いわゆる転入転出については、転入転出のいわゆる社会動態というんですか、動向については、その前にはやっぱりこの市内でのマッチングして結婚をし、そして出産をし、子どもをふやしていただく、そのように重点を置いているという考えで今も変わらないかどうかお伺いします。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） 基本的には、考え方は変わっておりません。

○議長（君島一郎議員） 19番、相馬義一議員。

○19番（相馬義一議員） そのような考えであれば、それはそれであれなんです、そういう中で、このたびの那須高林の工業団地等を購入し、さらにはそこに工場誘致を進めていくという、県等にも随分足を運んでおられるというお話は聞いております。

この人口が減ってしまう、栃木県内、あるいは全国の自治体から見て、この那須塩原市は大変恵まれて、幸いなことに人口減少の減少幅というんですか、が少ないとはお聞きしております。その要因は、基本的に何かとお考えですか、お伺いします。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 数値を分析しますと、社会増、社会増減の幅が近隣に比べて減少幅が少ないということがまずは挙げられるかと思えます。

○議長（君島一郎議員） 19番、相馬義一議員。

○19番（相馬義一議員） そうなれば、その社会動態というんですか、にも力を、推し進めるべきだと思いますが、その辺についてお願いします。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 現に施策展開等についても、その社会増減に配慮し、先ほど議員のお話にもありましたように雇用の場をつくる、それからUターン、Iターン、Jターン、そういうところに力を入れるという施策を展開しております。

市長が基本だということところは、むしろ弱いところをしっかりとカバーしたいということでございます。

○議長（君島一郎議員） 19番、相馬義一議員。

○19番（相馬義一議員） 市長の前の答弁の中に、企業の誘致促進は人口減少対策には有効であるという答弁もいただいております。今後もそのような点も踏まえ、自然の、いわゆる自然増だけじゃなく、社会動向に向けた増にも積極的に取り組んでいってほしい、そのように思います。

それでは、2番の生産年齢についての税収、減についてお伺いします。

先ほど答弁いただきました。ちょっと早かった

ものですから、平成29年には約190億ぐらい、それが38年になると171億幾らといったと思うんですが、書きとめられなかったものですから、171億ぐらいという試算をしておられます。

先日、もちろん皆さんも読んだと思いますが、下野新聞に隣の日光市の件が載っておりました。そのようなことも踏まえて、本市の今後のこの税収の減についての基本的な考え、課題、その辺はどのようにお考えしているかお聞きします。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

総務部長。

○総務部長（山田 隆） 先ほど市長が申し上げたように、市内の財政フレームで申し上げますと、かなりの税収減が見込まれるということでございます。

ただ、現実といたしまして、10月末現在、昨年度と今年度の税収比較申し上げますと、約4億の増加となっております。これは景気、うれしい誤算といえますか景気がかなりよくなってきたというところが要因だと思っております。

ただ、長期的に見ますと、やはり議員ご指摘の生産年齢人口の減少というのは必ずや影響があると思っておりますので、その辺は減少を前提に、先ほどから議論のありますように産業団地の造成であるとか定住促進というところも含めて施策の中に盛り込んで何とか歯どめをかけるというところが、やはり財政の見通しとしては立てるべき対策ではないかというふうに思っております。

○議長（君島一郎議員） 19番、相馬義一議員。

○19番（相馬義一議員） また繰り返しになりますが、前回の29年の3月の質問に対しての答弁の中で、これまでの、税収が減ってきた場合、これまでの提供してきた行政サービスの廃止、または有料化なども考えていると。あるいは、市の独自の事業の見直し等々という文言がありました。こ

の辺について、この1年10カ月の間に何か変わったことがありましたらお願いします。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

総務部長。

○総務部長（山田 隆） おっしゃるように、税収の減を前提に、今までどおりの行政サービス、フルに100%同じようなという形は今後は無理だろうと思っております。その中で、どのような形で事業を選択していくかという話になるかと思うんですが、事業のスクラップというのを今、かなり積極的に進めているところでありますが、具体的には30年度当初予算に当たっては約63事業のスクラップ事業として、廃止やいわゆる縮小という形を進めてきたわけでありましたが、約6億円をそこで事業費として減という形で進めているところでございます。

今後は、さらに税収減の歯どめはかなり進んでくると思っておりますので、なお一層、こんな形で、市民にとって何が本当に必要な事業かというのはさらに厳しく取捨選択していく必要があるんだろうと思っております。

○議長（君島一郎議員） 19番、相馬義一議員。

○19番（相馬義一議員） そのとおりだと思います。

市民からの、この行政サービスのニーズというのが非常に多様化しつつありますし、市民の個人個人の考え方等々も非常に幅広く、いろんな方の考えがあるなという、我々も議会報告会等でいろんな意見を聞く中でもそのようなこともありますし、個人的に議員だからこういうことをお願いしたいということもあります。そういった中でも、これからもうちょっと別なことでもお話ししますが、こんなこと考えているのかなと、そういう意見もありますので、そういったことも踏まえて税収が少なくなった場合の行政運営ということをしっか

りと捉えていただきたい、そのように思います。

続きまして、(2)のほうの新庁舎建設に合わせて市の中心地となる那須塩原駅周辺の整備の①の県北の中心市の顔となる駅周辺整備についてのほうに質問行きますが、先ほどの答弁でもありましたように、昭和57年に新幹線が開通をし、那須塩原駅が誕生したわけです。

我々が高校時代、あの駅をよく使っていました、あのころは東那須野駅ということで非常に、むしろ南側から駅を、今のいわゆる東口ですね、東口のほうから上って行って、ちょっと高台にあったところに利用させていただきました。それがあのような立派な新幹線の駅ができ、今度その東口よりもむしろ西口のほうが表玄関という形になりました。

しかし、あのころから比べて、もちろん区画整理等もございましたが、区画整理が終わった後、終わった後、余り現況は変わっていない、その新幹線がこれで30何年、3年目ぐらいになるんですか、そのような中で、旧黒磯、そして那須塩原市になってから、あの駅周辺が余り変化がないと私は思っています。

そういう中で、これから県北の中心地となる那須塩原駅周辺を、もう一度本当に根本的にどのような、先ほど公共交通の中心、あるいはロータリー、ロータリーというか駅前の駐車場、あれですか、駅前ですね、が混雑してきているという答弁がありました。本当にどのように整備していくのか、もう一度お考えをお聞きしたいと思います。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

建設部長。

○建設部長（稲見一美） ご指摘のとおり、区画整理が終わってから、もちろん区画整理事業を行って、商業地として発展していただきたいというような思いがございましたけれども、残念ながら思

うように、区画整理が終わっても進んでいないということでございます。

本市の都市計画におきましては、あの部分は県北の玄関口にふさわしい景観とか町並みの形成、そういうようなこととあわせて商業地、それから業務地、行政地としての中核になってほしいというような気持がございます。ですから、生かすのは地区内から眺望できる美しい那須連山の山並みとか、景観と調和した発展をさせたいということでございます。

今、黒磯駅前でも都市再生整備計画事業を入れまして、あそこを歩きやすい場所にして回遊していただいて、人がたくさんふえるというようなことをもくろんでやっておりますけれども、同様に那須塩原駅の周辺につきましても、この後、都市再生整備計画を入れまして活発化、活発な形成、市街地の形成につなげていきたいというふうに考えております。

○議長（君島一郎議員） 19番、相馬義一議員。

○19番（相馬義一議員） 先ほどの眞壁代表の質問の中でも、新庁舎があそこにできるということ、立地するということによって、いわゆるあの地域の少し活性化になり、新たなまちづくりの拠点となるんじゃないかという答弁があったかと思えます。そういう意味においても、この新庁舎を建設をしていただき、もっともっと中心市らしいまちづくりのためにも、その駅周辺整備というのは必要かと思えます。

この後の②、③番の質問にも関連します。関連しますが、そういった中でちょっと②のほうに移らせてもらいますが、都市計画道路の3・3・2号線、この件については私も重々承知はしております。重々承知はしておりますが、これは県の事業でありますし、しかしながら非常に重要な、那須塩原市にとって重要な路線の一番の路線だと思

います。

市長は、こういった重要な施策等については率先して要望等に歩くという発言もしておりました。そのようなことで、県のほうには随分足を運んでいるかと思いますが、その辺についてどのような今、状況にあるのかお伺いします。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） 県への要望の経過というお話がございましたが、積極的に県、これは大田原土木事務所、あるいは県の本課等々をお願いに行っているところでもあります。

特に、3・3・2黒磯那須北線については、もう県が一部工事に着手をしていただいている状況があります。同一路線の中で2つの箇所をどうのこうのという話になってきますとなかなか難しいところもあるわけですが、まずは上黒磯から那須町のほうへ橋をかけていただくということで進めてきた経過がございます。そういったところがある程度めどが立ったときには、こちら側の上厚崎から沓掛のほうへというふうな形のもので、これはあくまでも県事業ですからお願いをしていくということで、これについてはやはり積極的に要望活動を展開していきたいと思っております。

○議長（君島一郎議員） 19番、相馬義一議員。

○19番（相馬義一議員） これは、③の3・3・4号の東那須野東通りについても同様だと思います。

ただ、先日の我々、私どもの議会報告会の中で、多くの方が、東那須野公民館で開催したフォーラムの中では多くの方の意見が出ました。

市民の皆さんが訴えても、市議会議員、あるいは市は、これは県の事業だから、あるいは県が金がないからと言ってそのままの状況であると、そういった質問が出されました。そういった質問が

出されたときに、確かに我々は市議会議員ですから、なかなか県の事業に対して云々ということも答えられなかった経緯がありますが、市民にとってはその県の事業だから進まない、あるいは県の事業に要望は出しているけれども、それで終わっているというのが非常に不満であるというのが意見であります。そういった市民の意見。

これもまた市長のお考えの中で、那須塩原市に住み、生活する皆様を一番に考える市民優先の市政運営、多くの市民の皆様から寄せられた負託であり、それにしっかりと目に見える形でお応えしていくことが責務であるというお言葉を述べております。そういったことも含めまして、今、その2つの事業については非常に一番関心が高い事業だと私は思っておりますが、その辺の重点施策、課題という意味においてはどのようなお考えを持っていますか、お伺いします。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） 我々執行部も、市民の皆様方のお声というのは入ってきております。

3・3・2黒磯那須北線、初めは市が着手をした路線でございました。それを県の事業として取り組んでいただくという形になりました。県のほうの予算的な状況もあるわけがございますし、重要性としては、上黒磯の地区と、それから上厚崎地区、両方ともやはり重要な位置づけがある路線でもありますので、我々としましても、今まで以上にその重要性を県等にはお話をしていく、そしてなるだけ早い時期に整備に着手していただけるように努力はしてまいりたいと思っております。

○議長（君島一郎議員） 19番、相馬義一議員。

○19番（相馬義一議員） 市長の本当に県とのつながり、あるいは国とのつながり、つながっているからこそという何か以前に言葉があったかと思

います。つながっているからこそ豊かになれる市かな、そんなことも言っておられたと思います。しっかりと取り組んでいってほしい、そのように思います。本当に市の、県北の中心市となる顔が持てるような整備をしっかりと取り組んでいっていただきたいと思っております。

次に、④の区画整理外の下水道でございます。

これも、市民の方からの意見でございます。下水道が通っていれば住宅を建てたい、そのような意見はあります。しかしながら、下水道ないから云々という話がありますが、どちらが先かと言えば、当然ながら市としてはやはり相当な下水道の国からの認可も必要だし、相当なお金もかかります。決してこれを今すぐやれということを言っているわけではございませんが、しっかりと市民が住宅を張りつけるような施策の中の一つとして、下水道も必要ではないかと私は捉えておりますが、その件についてちょっとお答えをお願いします。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

上下水道部長。

○上下水道部長（磯 真） 下水道の整備につきましては、長期の基本構想でございますが那須塩原市生活排水処理基本構想というのを策定しております。そちらの中期目標が平成37年度まで、長期ですと平成47年度までという長い計画をつくっております。

その中で、下水道で整備する区域、あとは合併浄化槽で整備する区域というのを、費用負担を含めて総合的に検討した上で区域のほうを定めておりますので、今のところ事業計画、こちら中期目標であります平成37年度までの整備を重点的に行ってまいりたいと考えているところです。

○議長（君島一郎議員） 19番、相馬義一議員。

○19番（相馬義一議員） 現在、旧高林街道とい

間と申しますか、そこを下水道をやっておられると思います。ですから、あれから見ますと、住宅が張りついているから下水道を入れる、住宅が今後張りつこうとしている場所には、張りついてからやるという、そのような考え、もちろん計画はありますよ、計画はありますが、その辺をもう少しこの人口減少を考えた場合に、考えていただきたいと私は思ってこの質問をしました。答弁は結構です。

それでは、(3)の一体感について質問いたします。

さまざまなイベント等、あるいは団体の統合等をやって一体感を持っているという、とっているというお話が、答弁がございました。

先日行われた那須塩原市消防団の通常点検、あれなんかは一番いい例で、あれだけ3つの消防団が1つになって、1つの通常点検が実施された、非常に意義のある点検だったと思います。

そのような中で、先日ですが、ある新聞にこの那須塩原市1市2町の一体感ということで記載されておりました。そういう中で、市民の意識はもとのままであるという題名がありました。その一つの市民の意見の中では、那須塩原市はありがたいことに各今までの3市町の中に支所があり、いわゆる本所に足を向けなくても全ての、全てとはいえませんが用が足せてしまう、足りてしまう、そのようなことが載っておりました。私は、市民サービスのためには必要であるとは思いましたが、市民サービスを充実することによって一体感がこれうまくいっていないのかなと、逆にそういうことも思いました。

それには、お祭り、もちろん先ほどの答弁の中でも、その3市町にはそれぞれの歴史があり特色がある、そういう中でのお祭りが実施されている。那須塩原市の最大のお祭りは何かというと、私は巻狩まつりが一番だと思いますが、それは黒

磯の、もともと黒磯の私が思うことであって、西那須野の方については、もしかすると産業文化祭が一番のお祭りなのかもしれません。

そういったことを含めて、今後、巻狩まつりについては2日間事業をしております。今後もこの形態を同じくしていくのか、あるいはこの西那須野、塩原、そして黒磯にあるその地域の最大のイベントが何らかの形で一本化し、総合的なお祭りができないのかどうか、そういったことを考えることすら私の思うことですが、そういった考えが持てるかどうかお伺いします。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 非常に悩ましいところで、これまでもやはり何度となく庁内でも議論を重ねてまいりましたが、なかなか結論に至らないというのが現状でございます。

それぞれの歴史を持ち、積み重ねてきたものがあり、地域がそこに一緒になって行っているものを1つにぼんとまとめるというのは、これは極めて難しいのではないかと。そういったものの尊重しながら、新たに1つにまとめられるようなテーマでというのも一つの方策ではあると。ただ、那須塩原市、お祭りばかりやっているわけにもなかなかいかないというところで、何度も議論は繰り返すんですが、結論に至っていないというのが現状です。

引き続き、議員おっしゃるような視点も交えて検討させていただきなきゃならないというふうに思っています。

○議長（君島一郎議員） 19番、相馬義一議員。

○19番（相馬義一議員） そうですね、那須塩原市、お祭りばかりやっているわけにはいかないんですが、我々、議員の方どう思っているかわかりませんが、それぞれのお祭りにご招待を賜り、も

ちろんそれはそれで参加をするというのは、それはそれであれなんです、やはりメインとなる1つ、旧市町の祭りという形がまだまだ拭い捨てられない。じゃなくて、やっぱり那須塩原市としての、これは今、たまたま祭りのお話でございますが、これを含めて祭りだけでもございませぬが、団体の合併等々というお話もありました。そういったことも含めまして、もう少しスリム化してこの一体感を持てるような事業というんですか、検討していただきたい。

当然、歳入のほうともかかわりのある、歳出ですか、歳出でもかかわりあることですが、そういったことも含めまして取り組んでいってほしいと思います。その辺いかがでしょうか、部長。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） まさにおっしゃるとおり、我々としても同じような思いは持っておりますので、ちょっと申し加えれば、一体感の醸成というのは徐々に進んでいるということも感じてはおります。特に若い世代のほうで一体感の醸成が進んできているということも感じておりますが、またあわせて先ほどもお話ありましたように各団体、団体のほうも1つに全く一緒に合併する形をとったり、あるいは単位の地区のものが残りながら、その上に連合会組織というような形で統合が進んだり、いろんな形でそれぞれの団体が工夫をし、そういう一つの形をつくっているというところは、やっぱり一体感の醸成につながるものであろうというふうに思っています。

そういったものとあわせて、イベントのあり方についても検討させていただきたい、検討ばかりで申しわけありませんが、また引き続き検討させていただきたいと思っております。

○議長（君島一郎議員） 19番、相馬義一議員。

○19番（相馬義一議員） 題目は、大きい項目は人口が減らないまちということから始まっていることとございます。今までの質問の中でも、それを題目の中の一つ一つの項目として質問をしております。なかなか現状は、そうは簡単に行くことではございませんけれども、しっかりと取り組んでいってほしい。

最後に、子どもや女性が犯罪に遭わずにということと質問をさせていただき、先ほどの答弁で469件のそういった事件があったのが110件ほど減少しているという答弁がありました。

やはり市民が、この那須塩原市に来てよかったなという一つの考え方の一つとして、昼夜子どもたち、あるいは女性がひとり歩きできる、そしてそのひとり歩きした中で当然めぐり合って結婚できるような、そのような社会、社会とかこの市全体の安心安全というものをつくっていただきたいと私は思っているところでございます。

実行計画を見ますと、当然防犯灯の設置、あるいは防犯カメラの設置等々、実施計画には載っております。そういった中で、余りあれですけども、事件があった場所等々に、全体的に見渡してここには必要であろうというところに防犯灯、防犯カメラは設置されているんだと思います。しかしながら、場所によってはそういった事件が起きた場合、そういった起きたところにもやはり危険なところだという判断をもって設置をするべきだと私は思いますが、その辺についてお願いします。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

生活環境部長。

○生活環境部長（鹿野伸二） 議員おっしゃるとおりだと思っております。

ただ、現在は、自治会を超えて、自治会に防犯灯の申請をしていただいて、自治会ごとに設置をして、自治会ごとに維持管理をしていただいでい

るというのが現状であります。そんな中で、自治会を超えて、ここが危険箇所なのでこちらにも設置してほしいと、そういった具体的な相談は今のところございません。

ただ、今言ったように、そういったこと、危険箇所を確認すること、あるいは行政のほうからここにも設置してほしいというような要望を出すこと、こういったことが先ほど来言われております人口減少、そういったものを少しでも食い止める、そういったものの役に立つということであれば、今後、市のほうの課題として少し研究をさせていただければと思いますけれども、現在のところは先ほどいったようなことで、ほかの自治会にも設置してほしいという相談はありませんので、要綱に基づいて自治会ごとということをお願いをしているところでございます。

○議長（君島一郎議員） 19番、相馬義一議員。

○19番（相馬義一議員） 了解でございます。

その自治会云々、それにはその先の、答弁も今少しあったかと私は捉えました。そのような状況の中でしっかりと、先ほど申し上げたように小学生、いわゆる歩きとか歩行の方等々が、特に女性の方等も含めまして、ひとり歩きが昼夜問わずできるようなまちづくりと申しますか、そういったことにも十分に、もちろん先ほどの答弁の中でも、防犯意識の云々というお話がありましたが、そういうことも含めてしっかりと取り組んでいってほしい。

私は、今回、その人口減少ということと2度目の、2度目とか29年の3月以降もまたこれやりました。那須塩原市、住んでよかった、あるいは那須塩原市は人口が減らないのがどういふ特色があつて減らないのか、那須塩原市というのは非常にいい市で、何が人口減らないための特色ある事業をやっているのかというのを打ち出してい



てほしい。

最後になりますが、市長、その人口減らないための那須塩原市の特色というものは、市長が考える特色というのはどのようなものかお願いをいたします。

○議長（君島一郎議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） 前々から私が申し上げておりますとおり、第2次那須塩原市総合計画の「人が集まり新しい力が湧きあがるまち那須塩原」ということで、今まで住んでこられた市民の方々、そして新たに定住、そして移住して来られる市民の方々と一緒にやはり那須塩原をつくっていきけるような、そういった市のあり方を私は目指していきたいなと思っておりますし、この那須塩原市というのはいろいろな形でポテンシャルが高いところでもありますから、そういったものをどんどん市外に発信をし、そして那須塩原の魅力をさらに広めていきたいと、これがやはり人口減少に歯どめをかける、あるいは増とまではいきませんが、そういった形につながってくるのかなと考えておりますので、さらにこれからも努力してまいりたいと思います。

○議長（君島一郎議員） 19番、相馬義一議員。

○19番（相馬義一議員） 市長から、最後に人口減少に歯どめがかけられればという言葉いただきました。しっかりと事業を展開して行って、そのような方向に行っていただきたいというのが、人口が減らないまちをつくってほしいというのが私の思いでございます。どうぞしっかりと取り組んで行ってほしいです。よろしく願いをし、私の会派代表質問を終了いたします。

ありがとうございました。

○議長（君島一郎議員） 以上で敬清会の会派代表質問は終了いたしました。

会派代表質問の通告者は、全て終了いたしました。会派代表質問を終わりたいと思いますが、異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（君島一郎議員） 異議なしと認めます。

会派代表質問を終わります。

---

◇

### ◎散会の宣告

○議長（君島一郎議員） 以上で本日の議事日程は全て終了いたしました。

本日はこれをもって散会いたします。

ご苦労さまでした。

散会 午後 1時41分